令和４年度

活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター

熊本大学病院 地域医療･総合診療実践学寄附講座
地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座
感染症対応実践学寄附講座

もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ …… 1
2. 地域医療支援センター長あいさつ …… 2
3. スタッフ一覧 …… 3

2 熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院　地域医療支援センター）

1. 活動概要 …… 4
2. 活動報告
   - Ⅰ. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援 …… 5
   - Ⅱ. 地域の医療提供体制の確保に向けた支援 …… 8
   - Ⅲ. 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関すること 9
   - Ⅳ. その他 …… 10
   - Ⅴ. 女性医師キャリア支援 …… 15

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要 …… 20
2. 年間活動実績 …… 20
3. 活動報告
   - Ⅰ. 地域医療支援（診療支援） …… 21
   - Ⅱ. 調査・研究 …… 21
   - Ⅲ. 教育活動 …… 22
   - Ⅳ. 専門医資格修得後のキャリア支援について …… 30
   - Ⅴ. 講演会 …… 31
   - Ⅵ. 総合診療医育成のための PR 活動 …… 32
4. 専攻医の声 …… 32

4 教育拠点

＜くまもと県北教育拠点＞
1. 活動概要 …… 34
2. 年間活動実績 …… 34
3. 活動報告
　Ⅰ. 教育活動 …… 35
　Ⅱ. 診療 …… 37
　Ⅲ. 年間診療報告 …… 37

＜河浦教育拠点＞
1. 活動概要 …… 38
2. 年間活動実績 …… 38
3. 活動報告
　Ⅰ. 教育活動 …… 38
　Ⅱ. 診療 …… 38
　Ⅲ. 年間診療報告 …… 38
　Ⅳ. セミナー・勉強会等 …… 39

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ …… 40
2. 卒業生の声 …… 42

6 地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. 活動概要 …… 45
2. 地域医療の現状分析と考察 …… 45
3. 教員等一覧 …… 45
4. 事業報告 …… 46
5. 派遣先医療機関データ
　Ⅰ. 当該外来患者数等のグラフデータ
　Ⅱ. くまもとメディカルネットワーク(KMN)グラフデータ

7 感染症対応実践学寄附講座

1. 活動概要 …… 100
　Ⅰ. 寄附講座設置概要
　Ⅱ. 熊本県内における感染症専門医及び施設認定の状況
2. 年間活動実績 …… 103
3. 活動報告 …… 104

8 業績

1. 地域医療支援センター …… 108
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 …… 109
3. 教育拠点（くまもと県北拠点／河浦拠点） …… 110
4. 総合診療科医局員・専攻医(総合診療専門研修プログラム) …… 110

9 おわりに

1. 教員から …… 111
2. 事務から …… 118
3. あとがき …… 120

Ⅰ はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ

熊本県地域医療支援機構　理事長
熊本大学病院　病院長

馬　場　秀　夫

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構、県の寄附による、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」及び「地域医療連携ネットワーク寄附講座」の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和４年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県地域医療支援機構は、平成25年12月に設置され９年目が経過しました。「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、設置から７年を経過しました。また、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」も、設置から４年が経過しました。そして、新興感染症、院内感染予防などに対応可能な感染症専門医の育成、メディカルスタッフへのリカレント教育を目的として、今年度から新たに「感染症対応実践学寄附講座」を設置し事業を展開しているところです。

さて、熊本県の医師数は全国的に見て医師多数県とよく言われますが、地域ごとの内訳を見ると熊本市内に医師の集中がみられ、熊本市以外の地域での医師不足はまだまだ解消されておらず、むしろ全国平均よりも少ない状況にあります。我々はこれから、この医師偏在の状況を解消するための取り組みを続けていく必要があります。特に地域においては深刻な人口減少と高齢化に加え、昨今のコロナ渦の中、地域住民に適切な医療サービスを提供するために各医療機関は非常に苦労されている実情があります。

地域における持続的かつ適正な医療提供体制を確保するために、医師を派遣する立場の熊本大学病院と、医師の地域偏在の解消のための業務を実施する熊本県地域医療支援機構の両者の長として、熊本県と連携して取り組みを進める必要があることを、就任以来一貫して強く心に止めているところです。

新型コロナの猛威は４年度も引き続き、地域医療支援機構業務、寄附講座業務についても昨年度同様に当初の計画を中止、変更、縮小といった決断をせざるを得ない状況もあり、十分な取り組みが出来なかった面もありました。しかしながらオンライン配信等々の工夫で、事業の歩みを止めることなく、できることから一つ一つ着実に取り組んでまいりました。

本県の地域医療を取巻く状況が厳しい中、「熊本県地域医療支援機構」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」が連携して、それぞれの役割を果たしながら、(1) 地域医療を志す医学生や地域医療に従事する医師のキャリア形成支援、(2) 地域の医療提供体制の確保に向けた支援、(3) 学生に関する地域医療マインドの涵養、(4) 総合診療医の育成、(5) 地域医療拠点病院を核とする圏域の医療機能の向上に向けた連携ネットワーク体制の構築、(6) 新専門医制度における修学資金貸与医師等のキャリア形成の支援等について、継続的に更に推進していくこととしています。また、感染症対応につても新たな寄附講座の設置により、今回の新型コロナの経験を踏まえて、医師の育成・教育活動を展開しております。

今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携をさらに強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるようなお一層努力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（令和5年3月吉日）

2. 地域医療支援センター長あいさつ

熊本大学病院　地域医療支援センター長
熊本大学病院 総合診療科　教授

松　井　邦　彦

令和4年度の、熊本大学病院地域医療支援センターの報告書をお届けします。ご高覧いただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症の流行がはじまり、早いものでおよそ３年が経過しました。大小の流行の波を繰り返し、私たちの日常生活の全ての面に多大な影響をもたらしました。これを書いている今、一時の厳しい状況は、ずいぶん昔のことであったような気がします。医療の現場も、大変な時期を乗り越え、通常に戻りつつあるようです。病院外ではマスクの着用も緩められるようになりましたが、発熱の患者さんがいらっしゃると、やはり緊張が走ります。様々な要因が発熱をきたし得ますが、まずは新型コロナウイルス感染症の除外が浮かぶようになりました。

私たちの大きな使命の一つに、熊本県医師修学資金貸与制度（いわゆる地域枠）による、医学生や医師のキャリア支援があります。早いものでこの制度の第一期生の先生が、地域勤務の義務年限をほぼ終了するまでになりました。コロナ禍の中においても、県内地域の施設で働かれる先生方の数は、確実に増えつつあります。本制度が開始され、ここに至るまでに長い時間がかかったのは当初の予定通りですが、最近は、地域枠医師の活躍への期待が以前にもまして大きくなっているのを感じています。今後もこのシステムを維持、発展させることで、熊本県内の地域医療の質向上へ貢献することを、確信しています。

県内地域での医師の偏在は、依然として大きな問題です。地域枠学生、医師の支援をさせていただく我々としては、当初の手探りであった状況から、対象者の具体的なニーズを察知し、安心して勉学や勤務に励んでいただくことが出来るよう、可能な限りの対応を行ってきたと自負しています。対象者が増えることは喜ばしい一方で、同時に様々な形、内容の支援が必要となってきました。我々は、一つ一つの問題に丁寧に対応していく所存です。

また熊大病院地域医療支援センターでは、熊本県の寄附講座である、地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座や感染症対応実践学寄附講座に所属する先生方の支援も、併せて行っています。これについては、私たちに期待されている役割を、十分に果たしていると言えるまでに、未だ至っていないのが現状です。今後の課題として、より積極的な取り組みが必要であると感じています。

最後に、いつも私たちへご支援、ご指導をいただいている熊本県医療政策課の皆様方に、感謝を申し上げたいと思います。また県内地域の医療機関の皆様方、県医師会の先生方、そして最後に熊本大学病院の各診療科の先生方には、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。令和５年度は、この数年間、コロナ禍のために出来なかったことが出来るようになり、ますます忙しくなりそうです。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院 地域医療支援センター）

松井　邦彦	地域医療支援センター長／総合診療科　教授
荒木　智	地域医療センター副センター長（地域医療・総合診療実践学寄附講座　特任准教授）
後藤　理英子	特任助教／糖尿病・代謝内分泌内科
髙柳　宏史	特任助教／総合診療科
古賀　義規	客員研究員（御所浦診療所　所長）
片岡　恵一郎	客員研究員（小国公立病院　病院事業管理者）
松本　朋樹	客員研究員（医療法人社団孔和会 松本内科・眼科　理事長）
松岡　大智	地域医療支援コーディネーター
若杉　秀作	地域医療支援コーディネーター
高塚　貴子	女性医師復職支援コーディネーター
尾方　千穂	事務補佐員

◆ 熊本大学病院　地域医療・総合診療実践学寄附講座

荒木　智	特任准教授／総合診療科
佐土原　道人	特任助教／総合診療科
北村　泰斗	特任助教／総合診療科
山口　香	事務補佐員
山並　美緒	事務補佐員

◆ くまもと県北教育拠点（くまもと県北病院）

田宮　貞弘	熊本大学非常勤講師／総合診療科
小山　耕太	熊本大学非常勤講師／総合診療科
中村　孝典	特任助教／総合診療科

◆ 河浦教育拠点（天草市立河浦病院）

鶴田　真三	特任助教／総合診療科

◆ 熊本大学病院総合診療科医局員

武末　真希子	松田　圭史	空田　健一
平賀　円	永田　洋介	久保崎　順子

◆ 専攻医（熊本大学病院総合診療専門研修プログラム）

早川　香菜美	後期研修医5年目
下地　徹	後期研修医4年目
本田　宏介	後期研修医3年目
松岡　隼平	後期研修医2年目
西富　友哉	後期研修医1年目

2 熊本県地域医療支援機構
（熊本大学病院　地域医療支援センター）

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、将来地域で勤務する修学資金貸与学生等及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。令和４年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、地域の医療機関で勤務する修学資金貸与医師が確実に増加していく中、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、修学資金貸与学生・医師一人一人に対するきめ細やかな支援を行い、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。具体的には、修学資金貸与医師・学生一人一人に対する面談や相談業務のほか講演会等の開催や医療機関における地域医療への取り組みに関する広報関係の充実などを図ってまいりました。

また、女性医師の増加や育児に携わる世代の修学資金貸与医師の増加に伴い、出産子育てと仕事の両立、義務履行との関係等に対する関心が高まってきたことから、育児支援についてもさらなる充実に努めているところです。

さらに、第７次熊本県保健医療計画（平成30年度～令和５年度）や熊本県地域医療構想（平成29年３月策定）の実効性を高めるため、熊本県地域医療連携ネットワークによる地域の安定的な医療提供体制の構築に向け、率先した取り組みを進める自治体病院等への支援など、地域において必要とされる医療の確保にも努めてまいりました。

【主な取組み】

① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師への面談等によるきめ細やかな支援（一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等）

② キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与医師に係る派遣計画案の作成及び負担軽減策の実施

③ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

④ 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析、総合診療医など地域で必要とされる医師に関する情報提供等

⑤ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援

⑥ 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

⑦ 女性医師のキャリア支援（就業継続及び復職支援等）

⑧ 地域医療支援機構講演会開催

⑨ 地域医療支援機構広報誌「COCODE ！（ココデ）」の発行

2. 活動報告

Ⅰ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

1　キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援（一人一人の状況に応じた助言、相談対応等）

医師修学資金貸与医師及び卒業生については、56名全員を対象に令和４年7月～8月に面談を実施し、キャリア形成と義務履行の両立に関する本人の考えを聞き取り、本人の経験年数に応じて、必要なアドバイスを行いました。

医師修学資金貸与学生については、32名全員を対象に令和４年6月に面談を実施し、将来の希望や学生生活の状況等を聞き取り、生活面、学習面等個人ごとに必要な助言を行いました。また、6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について個別具体的なアドバイスを行いました。

医師・学生の抱える案件に応じて、複数回の面談を行い課題解決に向けた支援をきめ細やかに実施しました。

また、修学資金貸与医師が勤務する病院等に対して本人のキャリア形成と義務の履行の両立が図られるよう協力を要請するとともに新たに専門研修プログラムに従事する医師が所属する基幹施設の診療科との情報共有を図るなど、関係機関との連携によりキャリア支援を進めることに努めています。

2　キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与医師に係る派遣計画案の作成及び負担軽減策の実施

修学資金貸与医師の翌年度の派遣先については、「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」において、県内各地域における医師不足の状況や本人の意向、研修先・勤務先の状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において勤務先を調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議・決定することとされており、当機構としては、この基本的な考え方を踏まえて、翌年度の修学資金貸与医師の配置調整案を作成しました。

案の作成に先立って、５月に県医療政策課から大学病院の全診療科に対して、修学資金貸与医師の派遣人事説明会を実施し、具体に勤務する派遣先医療機関については、当該医師が所属する医局と県及び地域医療支援機構で調整の上、熊本県地域医療対策協議会の協議を経て決定することを再度確認し、キャリア支援と義務履行の両立を図るよう連携を密にした取り組みを進めています。

令和５年度は、医師業務３年目以上の修学資金貸与医師46名のうち、知事指定病院等での勤務者34名と、令和４年度（26名）より８名増加しました。また、知事指定病院等勤務者のうち18名が、第２グループ、第３グループの病院で勤務することとなっています。

なお、修学資金貸与制度創設以来初めてとなる地域枠からの離脱（県の同意のない離脱）事案が発生しました。

新しいキャリア支援策として、専門研修に進む卒後３年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前に知事指定病院の第２グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務履行を優先できる体制も構築して、キャリア形成と義務履行の両立を図るよう支援の充実に努めています。

3　地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムについて説明して周知するとともに、出産・子育て支援制度の活用と義務年限の取扱いについて周知を図るため、医療政策課担当者からの説明会を実施しました。

医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援として「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。

また、修学資金貸与者面談・地域医療ゼミ等を活用して、熊本県修学資金貸与制度、キャリア形成プログラムについて、貸与医師・学生に繰り返し説明し、周知に努めています。

【熊本県医師修学資金貸与人数一覧（2023年3月現在）】

（単位：人）

区分	年数・学年	地域枠	一般枠	県外枠	計	男	女
後期研修/地域勤務	8年目		3		3	2	1
	7年目	4	1		5	3	2
	6年目	4	4		8	7	1
	5年目	5	2		7	4	3
	4年目	5	4		9	7	2
	3年目	3	6		9	8	1
	小計	**21**	**20**	**0**	**41**	**31**	**10**
臨床研修	2年目	5			5	3	2
	1年目	5	3		8	5	3
	小計	**10**	**3**	**0**	**13**	8	5
在学生	6年生	7	1	1	9	4	5
	5年生	6	1		7	1	6
	4年生	5		1	6	2	4
	3年生	5			5	4	1
	2年生	5			5	2	3
	1年生	1			1	1	
	小計	**29**	**2**	**2**	**33**	14	19
合　計		**60**	**25**	**2**	**87**	53	34
						60.9%	39.1%

4　熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析、総合診療医など地域で必要とされる医師に関する情報提供等

今年度は、第２、第３グループの知事指定病院調査を実施。診療科ごとの常勤医師の不足状況、今後さらに派遣数の増加が見込まれる修学資金貸与医師の受け入れ可能な診療科について、非常勤職員の受け入れ状況等、宿日直体制について、出産・育児に関する支援体制の整備状況と出産・育児に関する休暇等制度の整備状況について調査を実施しました。
調査結果の概要については以下の通りです。

（1）医師の充足状況

① 診療科別常勤医師の不足状況

ア 今回の調査対象となった知事指定病院等第２グループ、第３グループの医療機関の大半の医療機関がいずれかの診療科で常勤医師が不足すると回答しました。

イ 特に、総合診療科あるいは総合内科・一般内科、整形外科の医師が不足するとの回答が多くありました。

ウ 常勤医師の不足が見込まれる理由としては、常勤医師の退職補充、地域社会の急激な高齢化に伴う疾患の増加、地域包括ケア、在宅医療の増加等による患者数の増加等があげられます。

② 非常勤医師の受け入れについて

・非常勤医師については、医療機関の標榜する診療科で週１日以上は受け入れている状況です。

(2) 宿日直体制について

○ 宿直の勤務体制は、多くの医療機関が、応援を依頼。主な依頼先としては、熊本大学病院、熊本赤十字病院があげられます。

(3) 出産・子育てにかかる医療機関の支援制度、体制等の運用状況

○ 妊娠中、出産後の勤務負担軽減策としては、当直免除、時間外勤務免除を制度化し、出産後の時間外勤務免除等の期間は、多くの医療機関で小学校入学時までの適用となっています。

○ 出産・育児等にかかる休暇制度については、医療機関により若干の相違はあるものの、産前産後休暇、育児休業制度、育児短時間勤務制度等については、きちんと整備されており、出産・育児に関する支援体制がかなり構築されているという状況です。

５　その他

● 地域医療ゼミの時間を活用して、修学資金貸与学生・医師及び自治医大学生・義務履行中の自治医大卒業医師に対して、知事指定病院第２グループの病院及び常勤の医師が勤務する天草地域の離島の２つの公立診療所から、施設の状況や地域の魅力等について説明する機会を設け、第２グループの病院等に対する理解の深化を図るとともに、貸与者自身が義務履行と将来のキャリア形成の両立について考える一助としました。なお、説明会の模様については、録画した動画を地域医療支援機構のホームページ上で１年間閲覧可能としており、令和４年度3月現在、各施設視聴合計177回ほどの再生回数を記録しています。

● 地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携で、総合診療科の若手医師に対してテレビ会議システム等を利用した合同カンファレンスやレジデントデイを実施し総合診療医としての能力向上に必要な助言、指導を行っています。

● 「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルツ」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生・義務履行中の卒業医師等に付与し、必要に応じて様々な医療情報を入手できる体制を充実させています。

【活用実績】（令和５年度２月現在）

○ 今日の臨床サポート：	ユーザー登録数	２２５人
	全ログイン件数	５，０１９件
	全アクセス件数	２３，３１６件
○ プロシージャーズ・コンサルツ：	ユーザー登録数	２１２人
	全ログイン件数	９７件

Ⅱ 地域の医療提供体制の確保に向けた支援

1　外来診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外において地域医療支援機構所属の教員（医師）が複数の地域の医療施設で下表のとおり非常勤の医師として診療支援を行いました。

大学病院・総合診療外来

月	火	水	木	金
松田	松井	髙柳	佐土原	北村

外来診療支援（医師が不足する医療機関への支援）

専任医師	支援内容及び支援先医療機関
後藤	R4. 4. 1～R5. 3. 31　くまもと県北病院（週１回） R4. 4. 1～R5. 3. 31　宇城市民病院（週１回）
髙柳	R4. 4. 1～R5. 3. 31　上天草総合病院（週１回） R4. 4. 1～R5. 3. 31　天草市立御所浦診療所（週１回）

2　テレビ会議システムを活用した遠隔診療・教育支援

熊本県の総合診療専門医育成支援整備事業の計画に基づく県内の公的医療機関等にテレビ会議システム配備する事業が完了したことを受け、当機構としてはテレビ会議システムの更なる活用に向けた取り組みを進めています。今年度もテレビ会議システムを活用した合同カンファレンスの実施や、総合診療科の専攻医の指導や総合診療の特別実習を行った学生の実習指導を実施するなど支援の取り組みに努めました。

テレビ会議システムの配備状況

設置年度	設置場所
平成 28 年度	御所浦診療所、湯島へき地診療所、そよう病院
平成 29 年度	小国公立病院、公立多良木病院、上天草総合病院
平成 30 年度	河浦病院、阿蘇医療センター、人吉医療センター
令和元年度	栖本病院、新和病院
令和 2 年度	国保水俣市立総合医療センター

3　熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けては、地域医療支援機構と地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座が連携し、県からの医師派遣要請に基づき本院の各診療科所属の医師を地域の医療機関に派遣し、地域医療提供体制の充実を図っています。

令和４年度は、当該寄附講座において12の地域医療拠点病院に常勤医師を派遣し、13の地域医療拠点病院に週１回または週２回、特任教員（医師）を派遣して、地域の中核的な病院の機能強化と地域の医療機関間での役割分担・連携を行う体制の構築に寄与しています。

なお、令和５年度については、各診療科と調整を行い、12の地域拠点病院の11の診療科に25名を派遣し、15の病院に週１回から２回、特任教員（医師）を合わせて11の診療科に派遣することとして調整したところです。

4　地域の医療機関に対する助言や医療機関との連携、調整

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、くまもと県北病院、天草市立河浦病院に教育拠点を設置し、地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図るとともに、当該講座から派遣した教員が、病院での日々の診療を通して、地域で求められる医療に適切に対応するための病院の活動に貢献しています。
- 当センターの教員が、診療支援先の病院において、医療提供体制の課題等について情報を共有するとともに、意見交換を行い地域に求められる医療提供の充実に努めています。

5　勤務環境改善支援センターとの相互連携

- 地域医療支援機構としては、キャリア形成プログラムの充実や研修環境・勤務負担軽減の改善等を図るため、勤務環境改善支援センターとの相互連携に努めています。具体的には、以下のような取り組みを進めています。
- 毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に勤務環境改善支援センターのセンター長、統括アドバイザーが出席。地域医療行政に関する情報共有を図っています。
- 勤務環境改善支援センターの会議（センター会議、運営協議会）に、当方からオブザーバーとして出席し、県内病院の勤務環境改善状況や労働行政の動きに関しても情報共有を図っています。
- 当機構が実施する知事指定病院調査についても、医療勤務環境改善支援センターに調査項目等に関して助言を受けるなど、相互協力体制のもとで取り組みを進めてきました。

Ⅲ 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関すること

1　県内外の医師、医学生等からの相談窓口の設置、面談対応

- 地域医療支援センターに相談窓口を設置。今年度は、主に貸与医師からのキャリア形成と義務履行の両立、貸与制度における義務履行の在り方に関する相談に対応しています。
- 地域医療支援機構のホームページ上で、医師の求人情報サイトにリンクを張って、関係者が、いつでも自分で求人情報を確認できる環境を整えており、当機構あての県のサイトの情報を見た県外の医師からの問い合わせに対応しています。

2　県内外医師へのリクルート活動

- オンラインで開催される全国会議等で、総合診療専門研修プログラム紹介のPRポスター・チラシを掲載するなど、コロナ禍の中でもできることを工夫して、求人活動を行いました。
- 今年度横浜市で３年ぶりに現地開催となった日本プライマリケア連合学会学術集会において、熊本県地域医療支援機構の取り組みや熊本大学病院総診プログラム紹介のポスター、パンフレット等を出展しました。
  （学術大会：令和４年６月11日～12日）

3　熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業（肥後ふるさと医学生実習支援事業）を平成30年度より実施しておりましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を見送ることとなりました。

【募集対象者】
熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生
【募集人数】
5名以内
【事業実施期間】
例年６月から翌年２月の間で実施
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見送りました。
【実習期間及び実習内容】
実習期間：原則として１週間以内（最低でも2日以上）
実習内容：診療参加、診療見学等
【実習先】
知事指定病院等のうち29の医療機関
【実習結果報告】
実習希望者は、実習終了後２週間以内に報告書を機構に提出
【事業の周知】
機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

Ⅳ その他

1　熊本県地域医療支援機構理事会の運営

第15回熊本県地域医療支援機構理事会を令和5年2月15日リモート形式（ZOOM）により実施しました。
以下の事項について協議され、承認されました。
【協議事項】
1. 令和４年度（2022年度）事業実績について
2. 令和５年度（2023年度）事業計画について
3. 令和５年度熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について

【報告事項】
熊本県地域医療連携ネットワーク事業について

2　熊本県地域医療支援機構講演会

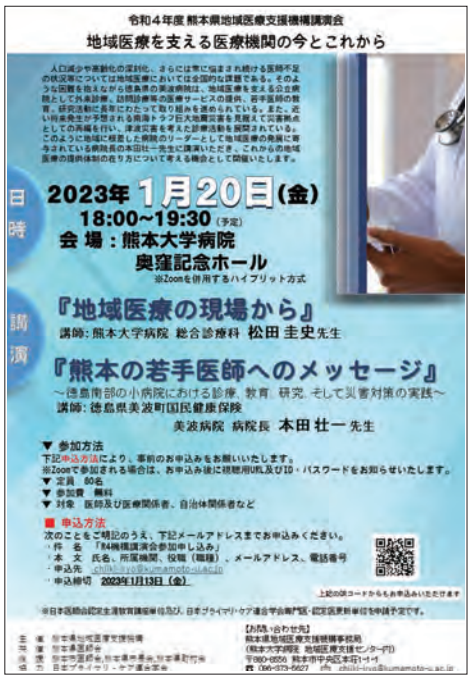
◆ 2023年１月20日（金）18：30～
令和４年度熊本県地域医療支援機構講演会
対面とリモート併用（いわゆるハイブリット方式）により開催
会場（対面）：熊本大学病院　奥窪記念ホール
講演会のテーマ：「地域医療を支える医療機関の今とこれから」

● 講演開催の趣旨
人口減少・高齢化の進展、労働人口の減少に伴うマンパワーの制約等、地域医療を取り巻く環境は相変わらず厳しい面があり、今後、持続可能な医療提供体制を維持していくためには中長期的な観点に立った取り組みが求められていいます。このように人口減少や高齢化の深刻化、さらには常に悩まされ続ける医師不足の状況等困難を抱える中、地域医療を支える公立病院で外来診療、訪問診療等に取り組んでおられる医師お二人に講演いただき、本県の医療関係者全体で、これからの地域の医療提供体制の在り方、地域の医療機関の可能性について考える機会とするために、今年度も以下の通り講演会を実施しました。

＜講演内容＞

1　報告：「地域医療の現場から」
　講師：熊本大学病院総合診療科　松田圭史 医師

　熊本県医師修学資金貸与制度に基づき、知事指定病院で勤務する義務のある医師として、地域の医療機関で勤務する本県医師修学資金貸与医師に本県知事指定病院での勤務状況について、若手医師の感じる「地域医療の現場から」として報告いただきました。



2　講演：「熊本の若手医師へのメッセージ」
　　― 徳島南部の小病院における診療、教育、研究、そして災害対策の実践 ―
　講師：徳島県美波町国民健康保険 美波病院
　　本田壮一 病院長

　人口減少や高齢化の深刻化、さらには常に悩まされ続ける医師不足等の課題を抱えながら、地域医療を支える公立病院として外来診療、訪問診療等の医療サービスの提供、若手医師の教育、研究活動等長年にわたる取り組み、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震災害を見据えた災害拠点としての病院の再編等、地域に根差した病院のリーダーとして地域医療の発展に寄与されている病院長の本田壮一先生に講演いただきました。

　今回の講演には、対面及びリモート合わせて70人が参加され、聴講された皆さんは、これからの地域の医療機関の取り組みやその在り方、地域に勤務実態等に関する講師のお話に熱心に耳を傾けておられました。

3　熊本大学病院総合診療科及び地域医療・総合診療実践学寄附講座、同大学病院総合臨床研修センター、熊本大学医学部、熊本県へき地医療支援機構との連携

● 地域医療ゼミについては機構と寄附講座が連携して、修学資金貸与制度やキャリア形成プログラムの周知や地域医療への理解を深める目的で、貸与学生、自治医大生（テーマによっては、貸与医師にも声をかけて）を対象に実施しています。今年度は、年間11回開催しましたが、新入生歓迎と卒業生追出しゼミを除き、リモートでの実施となりました。

● 新型コロナの感染拡大を受けて、例年機構と寄附講座が連携して実施している夏季地域医療特別実習の３年ぶりの開催を目指して、実習地の自治体となる上天草市や上天草総合病院の協力を得ながら準備を進めてきましたが、新型コロナ感染拡大第７波の影響で中止となりました。

4　知事への表敬訪問

　2023年3月28日（火）に、令和４年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生6名が、熊本県庁を訪れ蒲島郁夫知事より激励の言葉をいただきました。また、卒業生からそれぞれ、これから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を述べました。

5　メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発信しました。

① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める。

② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。

③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る。

＜対象＞

・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

＜発信状況＞

2022年4月から2023年3月までの間で、約772名の登録者に対し2回、熊本県地域医療支援機構の取り組み等を発信しました。

2022/ 12/26

Vol.57　「令和４年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ

2023/ 02/08

Vol.58　「医学生・研修医などをサポートするための会」開催のお知らせ

6　熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

● 令和４年度も学生や若手医師の地域医療及び総合診療に関する理解を深めるとともに地域住民に地域における医師の奮闘等をPRするため、地域医療支援機構の広報誌「COCODE ！（ココデ）」を９月（そよう病院を特集）と３月（天草市立病院群を特集）の２回発行しました。

● 「COCODE ！」は、熊本県内の地域の医療機関で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力を分かり易く、読みやすく伝えるマガジンです。複数の医療機関から問い合わせもありました。

※ 写真はCOCODE ！（ココデ）2022　Autumn Vol.4、springVol.5

聞くことをためらわない！フットワークの軽さが大切

中貫門先生：皆さん、こんにちは。私は阿蘇医療センターで総合診療医として働いています。医師として7年目で、出身は熊本市です。よろしくお願いします。

森嶋：私は熊大の保健学科を卒業し、放射線技師の国家資格を取得しましたが、子どもの頃からの夢をあきらめきれず、再受験して医学部医学科に入りなおしました。遠回りしましたが、地域のお医者さんを目指して頑張っています。

坂本：私は祖父が腎臓病で闘病したことがきっかけで、医師を目指しました。

森嶋：早速質問なんですが、総合診療医を目指す学生が、今のうちから学び備えていた方がいいなって思われることはありますか？

中貫門先生：特に「これ！」というものはないのですが、まんべんなくオールマイティに学ぶということでしょうか。仕事を始めると、地域ごと、病院ごとにルールが違い、病院が持っているリソースも違います。この病院では、この検査はできるけど、あの病院ではできない、ということがありますので、広い知識を持っていることは大切だと思います。また、患者さんと日々向き合っていると、疑問に思ったことや不安なことは、上司やほかの科の専門医に相談します。学生のうちは、聞くことをためらわない姿勢やフットワークの軽さを身に付けておくといいと思います。

坂本：ほかの科の専門医にコンサルトされることも多いんですね。

中貫門先生：はい。専門治療が必要な時は、ほかの科の専門医に相談しますし、自分がまだ経験したことがないような症例であれば、大学に行った時に同じ総合診療医の先生に相談します。

最新の知見を地方のリソースでどう生かすかが課題

森嶋：近年のトレンドである専門医取得に関連して、総合診療医が取得できるサブスペシャルティがあれば教えていただきたいです。

中貫門先生：現在は、新家庭医療専門医、病院総合診療専門医、地域総合診療専門医などが候補に挙がっているようです。サブスペシャルティはどんどん出てきていますので、今後もっと増えるかもしれません。私は先日、総合診療専門医の資格を取得しました。急いで取得する必要もないかなと思っています。

坂本：幅広い知識が求められると思いますが、最新の知見をどのようにして得ていますか？

中貫門先生：ウェブでの勉強会などがたくさんありますので、最新の情報はたくさん入ってきます。医師にとっては有料のものでも、学生さんは参加費が無料だったりすることもありますので、学生のうちからいろんなセミナーに参加してみるのもいいかもしれません。ただ最新の知見を得たとしても、地方のリソースで、どのように生かしていくのかということは、課題ではありますね。患者さん自身も「使い慣れていてお財布に優しい治療やお薬」を求めておられる方も多いので。

教科書通りにいかないことも。だからこそやりがいがある

坂本：総合診療医のやりがいはどのようなところだと思いますか？

中貫門先生：ロボット手術が"最先端医療"とするならば、総合診療医は今後の社会に必ず必要とされる"最前線医療"だと思います。オールマイティにやれるのが魅力です。専門がないということは決してデメリットではなく、必要であれば専門医に紹介するというのもプライマリケア医として大事な役目です。意思決定、QOL、倫理観などを総合的に判断して、患者や家族と一緒に方針を決めていくというのも総合診療医としての大事なスキルです。

森嶋：経験が必要ですね。

中貫門先生：そうですね。たとえばこれは僕が経験した事例なんですけど、毎日ゲートボールを楽しんでいる90歳のおばあちゃん。夕方5時ごろに電動シルバーカーで出掛けていたところ、倒れて病院に運ばれました。検査したらStanford A型大動脈解離でした。さあどうしますか？

森嶋・**坂本**：夕方だから、へりは飛ばせないですね。（心の声：「突然の質問！ドキドキ！」）

中貫門先生：年齢は高齢でしたが、手術ができる病院に電話し、受け入れていただき、無事に手術を終えて帰ってこられました。

坂本：普段、元気なおばあちゃんだから、保存的加療ではなく、外科的治療をご提案なさったんですね。

中貫門先生：このケースはうまくいきましたが、もちろんすべての方の治療がうまくいくわけではありません。

森嶋：教科書では、検査して、治療して、こんな風に治りますよ、ということを学びますが、教科書通りにはいかないこともあるんですね。

中貫門先生：高齢の患者さんに関しては完全に治すということだけではなく、今後の残りの人生をどう生きるかという点がポイントです。

森嶋：今回はご自身の体験を含めてお話いただき、大変勉強になりました。あらためて総合診療医として自分が働くときのイメージが湧きました。

坂本：私もほかの医療従事者や患者さんとコミュニケーションをとりながら、診療していくことが大切なんだなと思いました。地域医療に貢献できるように頑張ります！

中貫門先生：今後の日本の医療を考えると、総合診療医のニーズはとても高いです。総合診療を担う心強い同志が増えるとうれしいです。応援しています！

熊本
九州
熊本
天草市
たいせつなふるさとで、
たいせつなひとを診る。
熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市中央区本荘1-1-1
TEL:096-373-5627
http:/www.chiiki-iryo-kumamoto.org/
ご感想、ご意見お待ちしています。
写真/天草西海岸に沈む夕日
ここ、熊本で、地域の医療を支える。
COCODE!
ココデ
2023 Spring vol.5
ここ、熊本で、地域の医療を支える。
COCODE!
ココデ
2023 Spring
vol
5
Top Interview
天草エリアと、
わたしが交わした
3つのミッション
河浦病院
SHINZO TSURUDA
鶴田真三先生
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
河浦教育拠点 特任助教
Take Free
熊本県地域医療支援機構 広報誌

whyGP?
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 くまもと県北病院 総合診療医 村田助教 中村孝興先生(右)
熊本大学医学部医学科5年 中村水紀さん(左)
熊本大学医学部医学科4年 園川巨樹さん(中央)
若手医師×学生二人座談会
総合診療医のリアルを直撃
「教えて先輩!」
日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、
実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画!
今回はくまもと県北病院で総合診療医として働く中村孝興先生に、学生二人が、
総合診療医の魅力などについて聞きました。
診断が難しいとき、どのようにこたえればいいの?
中村先生:皆さん、こんにちは。私はくまもと県北病院の教育拠点で総合診療医として働いています。出身は熊本市で、妻と子ども3人の5人家族です。よろしくお願いします。
中村:よろしくお願いします。早速質問ですが、総合診療医はオールマイティに診なければならないというイメージがありますが、自分の苦手な分野の疾患や診断が難しい疾患などに直面した時、どうしたらいいのかなと不安です。
中村先生:総合診療医は、あらゆる症状や疾患を全人的に診ることになります。目の前にいる患者さんに、わからないことは、わからないと正直に伝えることや、自分よりも専門の先生につないだ方がベターだと判断した場合は、すぐにつなぐことが大事なことだと感じています。
中村:患者さんに「わからない」って言うのをためらってしまいそうです。
中村先生:私は、診療している際に疑問に思うことがあったら、その場で医療系のアプリやウェブ、教科書などで調べます。それでもわからない時は、診療後に先輩の先生に聞いたりして、次の診療時に患者さんにお伝えするようにしています。あいまいな記憶でなんとなく答えてその場を取り繕ったり、わからないことをそのままにせず、「次の診療時までに調べておきますね」と伝えることも、患者さんとの信頼関係を築く上で大切だと思います。
中村:先生にとって、どんなお医者さんが"いいお医者さん"だと思われますか?
中村先生:患者さんにとって何がベストなのかを常に考えて行動し、正直でうそをつかない医師ですかね。目の前の患者さんに誠実であれば、わからなければ必死になって調べますし、誠心誠意向き合うものですよ。
総合診療医になってよかったなと思う時はどんな時ですか?
園川:総合診療医になってよかったなと思う時はどんな時ですか?
中村先生:患者さんやご家族から感謝していただけたと感じるときは、うれしいですね。ほかの科の先生とコミュニケーションをとりながら患者さんを診ることも多いので、いろんな科の情報を得ることができたり、ほかの科の先生に感謝されることも多いのでやりがいがあります。また、総合診療医は、大学病院や市中病院、診療所、訪問診療など、さまざまな活躍の場があるという点も魅力ですね。専門性が高い専門医であれば、その専門に対してハード面とソフト面ともにそろった医療機関でしか力を発揮できないですが、総合診療医はどこにいても地域の役に立つことができます。
子育てと仕事の両立ができるか心配です
園川:子育てと仕事の両立ができるか心配です。
中村先生:私は4歳、2歳、0歳の3人の子どもの父親ですが、子どもを授かるまでは、バリバリ残業する人がかっこいいと思っていました(笑)。今は家庭を優先しています。子どもが小さいうちは"魚に免疫した"など、想定外のことが起こりますから、仕事で仲間に助けてもらうことも多いと思います。だからこそ、普段の仕事は誠心誠意頑張って、そして、仲間が困っているときは、いつでも力になるよ、応援するよ、と伝えています。お互い様ですからね。逆にいうと、家庭を大切にしたいと思っていても、どうしても仕事で帰りが遅くなったり、休日に出勤することもありますよね。ですから、家族に対しても、常日頃から誠実に、手伝えることは手伝うようにしています。特に女性は、ライフステージによって、優先すべきことが変わる可能性もありますから、職場全体でサポートするようなシステムができればいいですね。
学生時代にやっておいた方がいいことってありますか?
中村:学生時代にやっておいた方がいいことってありますか?
中村先生:将来の目標をあまり狭く選び過ぎずに、遊びも勉強もいろいろチャレンジしてみてください。臨床実習は、医療について学ぶだけでなく、患者さんや医療従事者との接し方を学ぶ場でもあります。医師はコメディカルの皆さんに支えられています。隣接の医師だけでなく、検査技師やリハビリの先生など、仲間の医療従事者が働きやすいように、指示を的確に出すのも医師の大切な仕事です。当たり前ですが、笑顔であいさつをしたり、感謝の気持ちを忘れずにいることはとても大切なことだと思います。
中村:中村先生、今日は貴重なお話をありがとうございました。「わからないことは、正直に伝える誠実さが必要だ」という言葉にハッとさせられました。
園川:子育てと仕事のバランスなどに不安を持っていたので、お話を聞けてよかったです。地域医療に貢献できるような医師を目指し、学びを深めます!
HP
facebook
instagram
COCODE 13
14 COCODE

Ⅴ 女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

今年度は以下の事業に取り組みました。

1　相談件数

令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日まで）の相談件数は、総計14件（対面4件、電話7件、メール3件）でした。

▼　相談内容の内訳（延べ相談数）令和４年４月１日～令和５年３月31現在

お留守番医師制度について	4 件	復職相談	0 件
働くこと働き方について	3 件	メンター制度について	0 件
求人の問い合わせ	9 件	同僚・医局の医師について	1 件
保育施設について	0 件	子育てについて	0 件
支援制度についての問い合わせ	0 件	社会保障等について	0 件
ネットワークづくり	0 件	マタニティ白衣・パンツ	0 件

今年度は「求人」「お留守番医師制度」「働き方」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援（お留守番医師制度）

週1回（場合によっては月1回も可能）から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在20医療機関）と連携しています。

在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです。

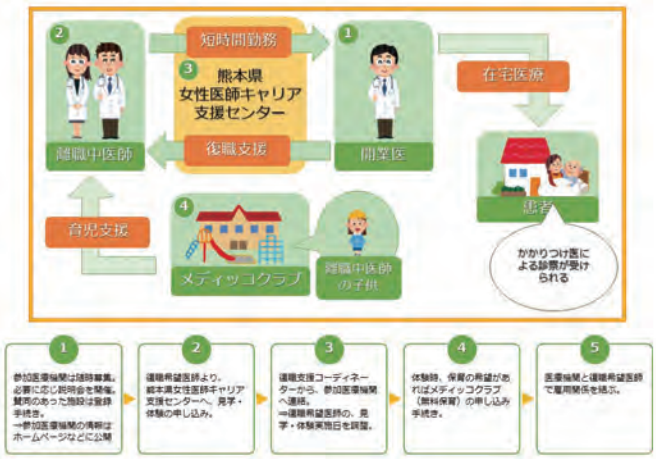
▼　お留守番医師制度に加入している医療機関

（2023 年 3 月 31 日時点）

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明午橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受けて在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

今年度のお留守番医師制度の体験者はありませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせて7名です。現在2名の医師が継続されています。



3　マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

これまでに利用された方からは、「お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もあまりお腹も目立たなかったようでした。」と好評を得ています。

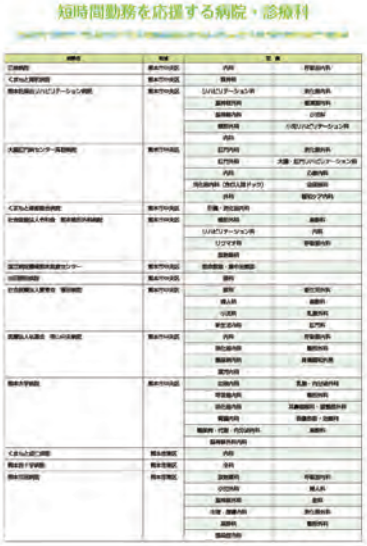
今年度は利用者がありませんでしたが、サービスの周知を図り、妊娠中から気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと考えています。

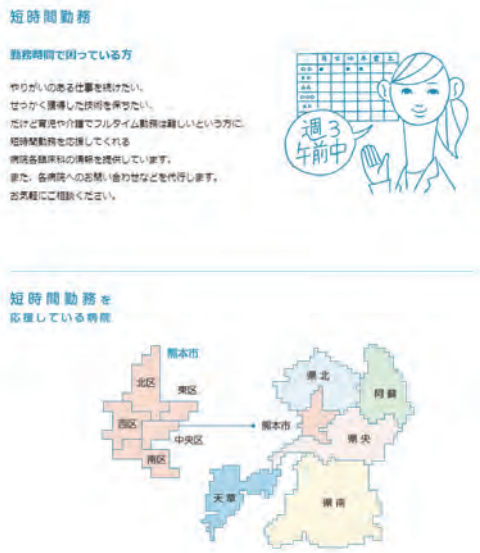
4　短時間勤務制度及び復職支援

短時間勤務制度の利用希望があった場合、専任医師と復職支援コーディネーターが代理で熊本県内の病院管理者もしくは熊本大学病院内診療科部長に相談することにしています。

復職を応援していただける病院・診療科は、熊本大学病院内の9科（うち復職支援プログラムがあるのは5科）、熊本大学病院を除く県内8施設（うち復職プログラムがある病院・診療科は7施設）でした。

短時間勤務制度・復職を応援する診療科と応援メッセージは、CLOVER冊子第4版とウエブサイトに公開し情報提供しています。





5　地域の医療機関に勤務する女性医師支援

地域に勤務する修学資金貸与医師、自治医科大学卒の女性医師を対象にオンラインで意見交換会を8回開催し、女性医師26人名中16名に参加いただきました。意見交換会で出た意見は内容ごとに分類してまとめ、課題を知事指定病院院長へ報告しました。

また、知事指定病院院長に対し、女性医師に向けた応援メッセージ及び今後取り組みたい対応策についてアンケートを実施しました。

このアンケート結果と女性医師の意見交換会の内容をまとめてニュースレターを600部作成し、国や全国都道府県など地域医療に関連する県内外の行政機関各部署、関係医療機関、医師、医学部生等に配布しました。

今後も地域で働く医師と面談を行い、協力機関や勤務先と連携して、課題の解決に向けて支援します。

＜地域に勤務する女性医師の意見交換会での意見（一部抜粋）＞

○ 自分が勤務する医療機関について

・常勤医師数が少ないため、妊娠中に体調不良で休む場合や、産休・育休を取得する場合、出産前後で当直免除にしてもらう場合等に、他の医師に負担がかかってしまう。

・子育て中の地域勤務は、保育園探しが一番大変。保育園が院内にあれば、とても安心して働けると思う。地域には、0歳児を預かってもらえる保育園がないので、（義務に算入されない育休を取得せず）産休明けですぐに復帰するのは難しい。

・妊婦健診や妊娠中の体調不良（つわり等）時の特別休暇の設定がなく、全て年休で対応した。院内で特別休暇に関する規定を作ってほしい。

○ 今後のライフプラン・キャリア等に関する不安

・妊娠・出産のタイミングをどうするべきか悩んでいる。

・保育園は11月頃には入園申し込みを締め切るところが多いため、夫と離れて暮らす場合、異動が決まってから保育園を探すのは大変そう。

○ 制度について等、行政に相談したいこと

・妊娠中はどうしても体調不良で急に休んだり、長期で休むことになったりするので、代診してくれる医師がいることが一番大事だと思う。

・妊娠中や出産後、当直免除で勤務する場合がほとんどのため、病院側としては当直支援を必要としていると思う。当直支援の仕組みを作ってほしい。

○ 女性医師が働きやすい環境に関する機運醸成の不足によるもの

・産休・育休で周りに迷惑をかける気まずさは、夫婦ともに育休を取らなければ共有できない。

・所属する医局では、子育て中の女性医師はほぼ非常勤で勤務している。また、地域の病院では妊娠・出産・育児時のサポートを受けられないためか、妊娠・出産は大学病院での勤務期間にする医師が多い。

○ その他

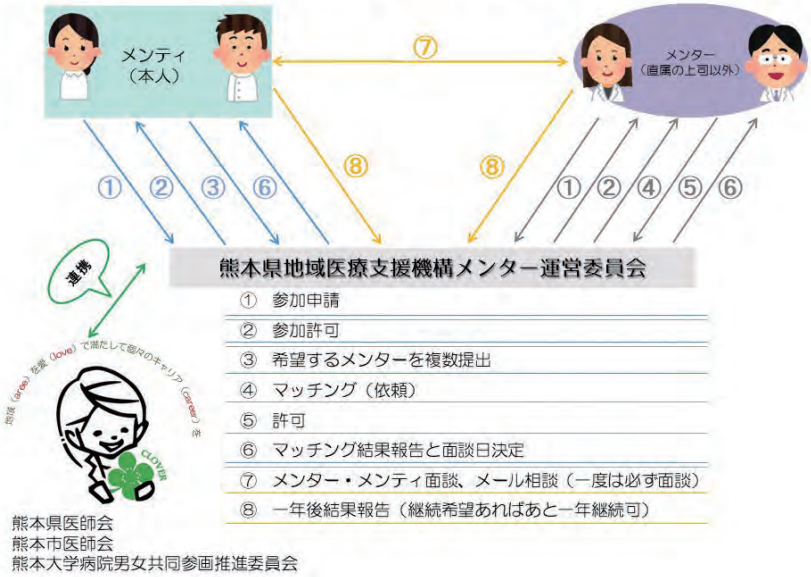
・義務明け後の就職については、義務最終年度に勤務していた病院を退職して新たな勤務先に就職することとなるため、最初は年休が取得できず、育児中にも関わらず休みを取れないのではないかと不安。

6　メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考える取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

現在、メンターとして28名の男女医師が登録しており、今年度は1名のメンティ登録女性医師が期間満了により登録を終了されました。

熊本県地域医療支援機構メンター制度イメージ図

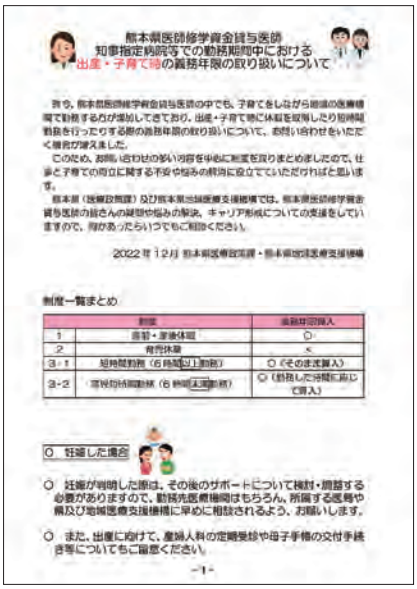


7　学生への啓発活動

- 1学年講義：令和4年6月6日　医学概論　「医師のキャリア形成、多様性推進」
- 4学年講義：令和4年5月30日　行動科学Ⅱ　「医師の男女共同参画とワークライフバランス、キャリア形成」
- 熊本県医師会主催：令和5年2月17日　令和4年度　医学生・研修医をサポートするための会「医師の育休とキャリアについて考える」

8　広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護支援情報」などを掲載しています。
- Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- 県就学資金貸与医師について、仕事と子育ての両立に関する不安や悩みの解消に資するため、知事指定病院勤務期間中における出産、子育て時の義務年限の取扱いに関するパンフレットを医療政策課、地域医療支援機構連名で作成し、地域医療支援機構ホームページに掲載しました。


熊本県医師修学資金貸与医師
知事指定病院等での勤務期間中における
出産・子育て時の義務年限の取り扱いについて

2022年12月 熊本県医療政策課・熊本県地域医療支援機構

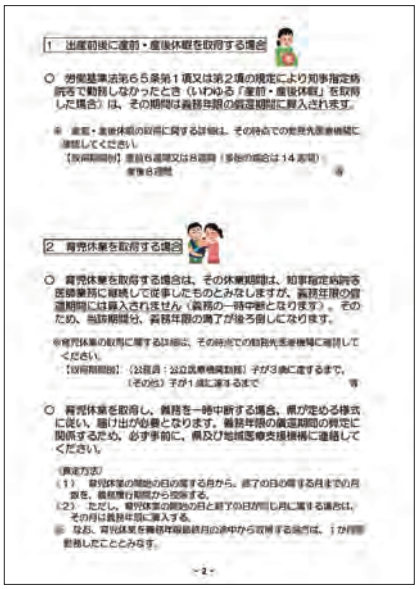
制度一覧まとめ

	制度	義務年限算入
1	産前・産後休暇	○
2	育児休業	×
3-1	短時間勤務（6時間以上勤務）	○（そのまま算入）
3-2	育児時短勤務（6時間未満勤務）	○（勤務した分量に応じて算入）

○ 妊娠した場合

○ 妊娠が判明した際は、その後のサポートについて検討・調整する必要がありますので、勤務先医療機関はもちろん、所属する医局や県及び地域医療支援機構に早めに相談されるよう、お願いします。

○ また、出産に向けて、産婦人科の定期受診や母子手帳の交付手続き等についてもご留意ください。


1　出産前後に産前・産後休暇を取得する場合

○ 労働基準法第65条第1項又は第2項の規定により知事指定病院等で勤務しなかったとき（いわゆる「産前・産後休暇」を取得した場合）は、その期間は義務年限の猶予期間に算入されます。

※ 産前・産後休暇の取得に関する詳細は、その時点での所属先医療機関に確認してください。

【取得期間例】産前6週間又は8週間（多胎の場合は14週間）
産後8週間　等

2　育児休業を取得する場合

○ 育児休業を取得する場合は、その休業期間は、知事指定病院等で医師業務に継続して従事したものとみなしますが、義務年限の猶予期間には算入されません（義務の一時中断となります）。そのため、当該期間分、義務年限の満了が後ろ倒しになります。

※育児休業の取得に関する詳細は、その時点での勤務先医療機関に確認してください。

【取得期間例】（公務員：公立医療機関勤務）子が3歳に達するまで、
（その他）子が1歳に達するまで　等

○ 育児休業を取得し、義務を一時中断する場合、県が定める様式に従い、届け出が必要となります。義務年限の猶予期間の特定に関係するため、必ず事前に、県及び地域医療支援機構に連絡してください。

（算定方法）
（1）育児休業の開始の日の属する月から、終了の日の属する月までの月数を、義務履行期間から控除する。
（2）ただし、育児休業の開始の日と終了の日が同じ月に属する場合は、その月は義務年限に算入する。
※ なお、育児休業を義務年限最終月の途中から取得する場合は、1か月間勤務したこととみなす。

（パンフレットより一部抜粋）

9　女性医師キャリア支援に関するネットワーク構築

地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学病院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会（クローバーの会）」の活動で、各機関が連携して講演会やセミナーなどの啓発活動、短時間勤務制度の有効活用などのための相談業務、育児支援等を実施し、女性医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めています。今後の医師の働き方改革も念頭に、勤務環境改善センターとも連携して、女性医師及び子育て医師が、働きやすく安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図られるよう、支援を進めていくこととしています。